

農家さんのところまで買いに行こう

ボクたちが **作って** 売っています



「旬果集稲」のメンバーのこだわりの農産物を紹介!
農園に行く場合は、電話をすると食べごろの野菜や果物の有無を教えてもらえて、スムーズに購入することができます。



幸田町の農産物を食べよう!

幸田町若手農家グループ

しゅん か しゅう とう

旬果集稲

幸田町に在住している若手農家の方が集まって「旬果集稲(しゅんかしゅうとう)」というグループを作りました。幸田町の農産物をPRしたい!と立ち上がった若き農家の熱い思いを伺いました。



消費者に新鮮な農産物を!
「旬果集稲」の取り組み



農家がつって農家が売る
「農直」

米 8月下旬~通年

「コシヒカリ」、「ミルククイーン」、「あいちのかおり」を栽培。育苗から田植え、精米、貯蔵までのすべての作業を行うことで、1年を通して変わらない味と品質を守り続けています。



のばライスセンター
444-0128 幸田町野場石田63 tel 0564-63-0556

トマト 2月~3月末、5月~6月中旬、9月~10月中旬

糖度がより高くなるという「低段密植栽培」を採用し、専用品種「未来(みく)」というトマトを作っています。皮は厚めで日持ちもするうえに、うま味が凝縮していて濃厚。甘くて食べ応えもあり、オススメ。



こうた花園 (カーナビは「こうた花園」で)
444-0127 幸田町大字須美字椿3 tel 090-1789-6862

さつまいも 12月中旬~2月下旬

「金時」「紅あずま」などの有名な品種や、焼き芋に最適な「紅はるか」「シルクスweet」なども育てています。収穫後に貯蔵することによってより甘みを増やしています。早生みかん(12月中旬~1月下旬)、たけのこ(4月)なども。



アサヒ農園
444-0127 幸田町須美洗前70 tel 090-7861-0141

筆柿 9月中旬~11月下旬

体にいい物を作りたいと、なるべく農薬を使わないで栽培し、とびきり甘いものを選んで提供。11月からは干し柿も。桃(6月中旬~7月中旬)、早生みかん(12月中旬~1月中旬)、青島みかん(2月上旬~3月末)も作っています。



平岩ファーム
444-0127 幸田町大字須美字向屋敷66 tel 090-4853-0141

長なす 6月下旬~10月下旬

幸田の特産でもある夏秋なす「筑陽」はヘタがトゲトゲした鮮度のいいものを提供しています。火を入れるとトロトロの食感がたまらない!オススメは焼きなす。里芋、大芋もあり。



加藤ファーム
444-0127 幸田町須美字屋敷36 tel 080-1626-9537

ぶどう 8月上旬~9月上旬

「巨峰」、「シャインマスカット」をはじめ、多くの品種を取り扱い中。粒ぞろいの房に仕上げるために手をかけ、時間をかけ、一番おいしい時に収穫しています。



ヤマニ農園
444-0128 幸田町大字野場字南野35 tel 090-8079-9862、0564-62-0515

なし 8月上旬~9月下旬

瑞々しく甘い「幸水」は8月上旬から、やや酸味のある「豊水」は9月ごろからがおいしい時期。一番おいしい状態のものを見極めて提供します。食べる前にしっかりと冷やすのがコツです。



夏目農園
444-0123 幸田町上六栗金ヶ崎21 tel 090-7316-1637

洋らん 11月~4月

珍しい品種の洋らんのみを専門に、2年かけて花を咲かせています。イチ押しは鮮やかな赤色が魅力の「レッドカーペット」です。寒さに強く、花持ち2ヶ月。花を保たせるためのお手入れの方法も教えます。メダカや食虫植物も。



稲吉洋蘭ハウス
444-0125 幸田町逆川川原23 tel 090-1785-2430

「新鮮な農産物を多くの人に届けたい」、「幸田町の農産物をPRしたい」との思いから結成したのが「旬果集稲(しゅんかしゅうとう)」という、幸田町の農家9人で作ったグループです。消防団などの地域活動を通して知り合い、平均年齢は34歳ほどで最年少は28歳という若手で構成されています。2016年4月に結成し、8月からチラシを配り始めるなどの活動を始め、10月26日には直売所「平六(へいろく)」がオープン。順調に精力的な活動を行っています。「平六」は、グループの熱い思いに賛同し、触発された「のばライスセンター」のお父さんが、9畳程の車庫をリフォームして作ったもの。地元で採れた新鮮な農産物を安く買えて、さらに作っている人の顔が見えることで安心感が得られると好評です。また「平六」では、「旬果集稲」の農産物以外に、米や近隣の農家の方が持ってきてくれたこだわりの野菜、卵かけごはんにぴったりなランニングエッグなども並んでいます。特に米は、常時5種類の米が玄米の状態であり、1キロ単位で好みの分つきで精米してもらえるとあって人気。

「季節や天候によって店頭には並ぶものは変わりますが、7月は日川白鳳(ひかわはくほう)という酸味が少なく、すっきりとした甘さが特徴の桃が店頭に並びますよ」と、「旬果集稲」代表の平岩さん。オープンして1年も経っていませんが、近所の人を中心に少しずつ認知度が上がり、リピーターも増えてきたと感じるそうです。



直売所「平六」
額田郡幸田町 大字六栗字本郷14番地
電話: 0564-77-5882
営業時間: 9:00~17:00
定休日: 日曜

また、「旬果集稲」メンバーの野菜や果物、花などはそれぞれの畑に直接行って購入することもできます。農家から直接買うことで、新鮮なのはもちろん、農産物の保存方法や美味しい食べ方などを教えてもらえるというメリットもあります。さらに、生で食べられるトマトなどの野菜や果物は、試食ができるのも魅力。味を確かめて納得したものを購入することができます。でも、直接農家まで買いに行くことに抵抗があったり、一軒一軒農家を回るのが負担だと感じる人は、先に紹介した直売所「平六」がオススメです。畑、直売所、それぞれの良さを理解しながら、地元産の農産物に触れてみましょう。

「旬果集稲」の今後の活動としては、農家がつくって農家が売る消費者と生産者の距離が近い「農直」を軸に、幸田町の農産物を日本中に広めるためにいろいろな案を構想中なのだとか。「地元の農産物や地産地消が身近に感じられるようになったのはJAのおかげです。これからはJAと一緒に幸田の農業を盛り立てていきたいです」と平岩さん。畑で、直売所で、食べて買って「旬果集稲」の活動を応援しましょう。